

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473301008	事業の開始年月日	平成17年12月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	有限会社真全		
事業所名	グループホームまっとう		
所在地	(〒226-0026) 横浜市緑区長津田町2365		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員 宿泊定員	名 名
自己評価作成日	令和4年9月20日	評価結果 市町村受理日	令和5年1月31日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>グループホームまっとうはJR横浜線、田園都市線長津田駅より徒歩10分弱の緑豊かな高台にあります。朝日が燦々と降り注ぎ鳥の鳴き声で目覚め、夜は長津田周辺の美しい街並みが望めます。つくし野に抜ける長津田宿市民の森の入り口は施設に隣接していて気軽に散歩や外気浴出来る環境が整っています。広い廊下を利用して本人の能力に応じて歩く事を基本に食事やおやつの前に歩行訓練を行う事を習慣にしています。入居者様と一緒に班長さん宅に回覧板を届けたりご近所の方が畑で育てた野菜を度々届けて下さり馴染の関係が築けています。毎日午前中医療と連携して皮膚の状態を確認しながらお一人おひとりに保湿剤等の外用薬を入念に塗布し皮膚の状態の改善に努めています。横浜グループホーム連絡会の活動に参加し他ブロックの情報や青葉緑ブロックの方との交流も大切にしながら日々のケアに活かしています。</p>
--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

調査機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和4年10月18日	評価機関 評価決定日	令和4年12月13日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> グループホームまっとうは、JR横浜線並びに東急田園都市線長津田駅から徒歩10分の高台にあり、ロッジ風の洒落た木造二階建ての事業所である。2年前に横浜市の「市民の森」として指定された「長津田宿市民の森」に隣接しており、市によって整備された園路やベンチは利用者にとって格好の散歩コースであり、外気浴の場となっている。</p> <p><b>【「私の人生の歴史」の活用】</b> 入居時に利用者ご本人や家族に「私の人生の歴史」を記入願うことにしている。これは利用者の誕生から入居に至るまで、どこでどのように人生を過ごしてきたかを克明に記すもので家族、学校、職場、趣味、特技、楽しかった思い出等も含んだ内容になっている。本事業所の特徴の一つである認知症の方とのコミュニケーション方法である「バリデーション」を実践するうえにおいても、その方を知ることがスタートラインになっている。「私の人生の歴史」は、その重要な要素であり、職員は、これを基にアセスメントを行い、利用者にふさわしいケアをするように努めている。</p> <p><b>【家族との密な関係構築】</b> 今年度はコロナ禍のため、家族会を書面開催とし、年に2回事業所の活動報告等を送付している。運営推進会議にも各ユニットの家族代表に出席願ひ、事業所の現状について報告している。毎月の利用者の様子は、居室担当者による手書きの「今月のお知らせ」で詳細に伝えており、家族からは様子が良くわかるし、温かみを感じると高い評価を得ている。また、介護計画を見直す際に医師も交えて開催するサービス担当者会議にも家族に出席を願ひ、利用者の体調等を把握してもらうようにもしている。管理者は、ほとんどの家族とLINEでやり取りし、家族からの要望もしっかりと把握し、対応することになっている。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

事業所名	グループホームまっとう
ユニット名	1階Aユニット

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所に掲示している。フロア会議で唱和して理念の重要性を共有している。	コロナ禍以前は朝礼の際に理念を唱和していたが、今はフロア会議での唱和に変更し、職員に周知している。全員に配布される議事録にも理念が印刷されており、職員は理念を意識している。難病により褥瘡のできた利用者に対して、理念にある「困難に直面した時は、チームで考え、取り組みます」を実践し、褥瘡のケアにチームで取り組み効果を上げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会から回ってくる回覧板や自治会長さんから情報を得ている。ご近所の方が度々畑で収穫した野菜を届けてくれる。一緒に回覧板を届けに行き道で会う人に挨拶している。	長津田東向地自治会に加入し、回覧板にて地域の情報を得ている。園芸ボランティアが来所し、玄関周りや庭の花木の手入れ、菜園の世話をしてくれている。コロナ禍前に来所があった草笛や切り絵のボランティアも再開予定である。市民の森に行く近隣の保育園児に、利用者がベランダから楽しそうに手を振ることもある。近隣住民より古新聞や紙おむつの提供があり重宝している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ながつたささえあいネットの協力事業者として長津田地域包括支援センターとの関わりがあります。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し運営状況や活動状況報告を行っています。施設での開催は少なく書面で開催している。メンバーはご家族代表、自治会長、民生委員、地域包括支援センターの職員です。	運営推進会議のメンバーは、自治会副会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表で、今年度は集合形式と書面形式にて開催している。会議では慰労の言葉がほとんどだが、市民の森の大木が災害時に倒木するリスクがあるとの指摘があり、市に掛け合い伐採してもらった例がある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進を通じて地域包括支援センターの職員に活動状況報告して連携を図っている。	運営推進会議報告書は緑区高齢・障害支援課に郵送し、要介護認定の更新時には職員が出向き、手続きを行っている。横浜市介護事業指導課より抗原検査キットの配布を受けている。グループホーム連絡会青葉・緑ブロックの研修講師を区役所職員に依頼している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	契約書に身体拘束をしない介護について明記し外部、内部研修を実施し身体拘束虐待防止委員会を設置している。玄関のドアは開錠しているが防犯対策と安全を考慮して内側のドアは施錠している。	管理者と各ユニット代表の3名で構成される身体拘束及び高齢者虐待防止委員会を3か月に1度の頻度で開催し、不適切なケア防止について協議している。年に1度「自己チェックリスト」を配布し、振り返りも実施している。帰宅願望のある利用者に対しては、「バリデーション」も用いながら会話を重ね落ち着いてもらうようにしている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての外部内部研修を行い虐待に繋がる不適切なケアについて学びフロア会議等で職員同士が注意し会える土壌作りをしている。	高齢者虐待防止委員会の議事録は全職員に回覧し、内容を周知している。外部研修を受講した職員が講師となりフロア会議にて伝達研修を実施している。また、事業所内にてオンライン研修も実施し、職員が虐待防止について学ぶ機会を設けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修として職員に権利擁護の視点に基づく生活支援の研修に参加して貰いフロア会議で情報共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結にあたっては入居者様の不利益になる事がない事を基本に充分話し合いをして不安、疑問点がない形で入退去頂いている。変更、改定の際は同意書を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会（コロナ禍は書面会議で）苦情の相談窓口を設けている。	面会は事前予約の上、玄関先やベランダ越しで15分程度実施している。管理者と家族とのLINEでは要望より感謝の言葉が多い。「今月のお知らせ」等を送付して様々な情報をこまめに家族に伝えており、喜ばれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社全体での合同会議を月1回行い職員の意見を反映させている。毎月行われているフロア会議では職員の発言の機会を多くし反映させている。	法人社長、法人事務長が参加する「合同会議」に事業所より2名参加し、コロナ禍の影響による人手不足解消のための人的支援や事業所内の危険個所の修理・修繕、エアコン清掃による衛生面改善といった職員からの要望を伝え、対応してもらっている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入しており職員の努力を反映させている	管理者は年に2回正規、非正規問わず全職員と評価についての面談を実施している。また、定期面談以外にも面談の機会を持つこともある。介護福祉士取得に際しては、受験料は全額法人負担とし、資格手当の支給制度もある。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加して貰い職員を育てる取り組みを行っている。	キャリアパス制度は導入していない。職員の育成に関しては、管理者は、内部外部問わず研修には参加させ、事業所内ではOJTを通して育成している。特徴である「バリデーション」に関しては1年間毎月1回の研修を全職員に受講してもらい、修得してもらっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	神奈川県認知症グループホーム協議会、横浜グループホーム連絡会の研修に参加し、他のグループホームとの交流の機会がある。横浜グループホーム連絡会の会合に参加し情報を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族に書いて頂く私の人生の歴史を参考にしながら困り事や不安に思っている事、要望を伺い日々のケアに活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約書や重要事項説明書の十分な説明を行い困り事や不安に思っている事要望を伺い信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体面、精神面やご家族との関係等を充分アセスメントしどのような支援が必要か見極めて他の社会資源も活用し最善のサービスを提供出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の人生を主体的に生きられる様残存能力を活かして出来る事はやって頂き対等な関係を築いて行ける様に接している		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には毎月居室担当者を設け「今月のお知らせ」として近況報告をしている。メールや電話でやり取りしてチームの一員として関わって頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に仲良くされていた方からの電話やお届け物があり取り次いでいます。	「私の人生の歴史」により利用者を知りケアに活かしている。入居前からの趣味では、人形作りやキーボード演奏を継続している利用者がある。食生活ではヨーグルトを毎日欠かさない方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様個々の性格を把握する事により孤立感を防止し、良い関係が築ける様職員が橋渡しをし、入居者様同士で支え合える環境を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も電話やメールでの交流がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から傾聴を心掛け困り事や不安に思っている事を把握し表情から汲み取る様努めている。日々の情報を申し送りで把握しフロア会議ではひとり一人のケアの確認に時間を掛けて検討し個別ケアを大切にしている。	不穏な時には「私の人生の歴史」を活用し、利用者の昔を振り返ったり、色々な話題に話を変えて、気持ち落ち着くようにしている。発語が難しい方に対しては、表情や仕草で何を考えているかを探りながら、思いを把握するようにしている。把握した思いや意向は「申し送りノート」と「業務日誌」に記載し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「私の人生の歴史」を書いて貰いアセスメントシートを活用して馴染みの人や場所の継続出来る様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自由に過ごして頂く事を基本的に強制ではなく一人ひとりの出来る事を見極め残存能力を活かす様にしています。役割を持つ事が生きがいに繋がる様に支援している。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者による毎月のモニタリングとご家族や医療機関等の関係者によるサービス担当者会議を実施し介護計画書を作成している。必要に応じご家族を交えて今後の方針を納得出来るまで話し合っている。	初回ケアプランは2か月後に見直しを行う。2回目はフロア会議でモニタリング、サービス担当者会議を経て、作成する。長期目標は6か月、短期は3か月としている。フロア会議では、ユニット全職員が参加し様々な意見を取り入れながらモニタリングを実施している。ケアプランはケア記録に挟み、常に確認出来るようにしている。また、サービス内容もケア記録に記載している。	



27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日頃から個別記録を丁寧に記入する様心掛け申し送りノートを活用して情報共有に努めている。個別記録は夜勤、医療を色分けしている。</p>		
----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療と連携して筋力低下を防ぐ為マッサージを利用している。褥瘡防止のエアーマット等の福祉用具もご家族と相談して導入している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設に隣接している長津田宿市民の森は気軽に森林浴が出来ます。班長さん宅に回覧板を届けて頂いています。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科往診があり必要に応じて他科への受診の取次ぎをして貰っている。皮膚科の訪問診療が始まりご入居者様の受診の負担軽減が出来ます。	利用者は月2回の訪問診療を受診し、職員は「診察内容報告」で状況を共有している。訪問歯科は月1回で「口腔衛生管理に関する実施記録」で内容を把握している。整形外科等外部受診は家族または職員が対応し、介護記録に内容を記載している。非常勤看護職員が利用者の健康管理を週2回行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は業務日誌や申し送り個人記録を確認して情報共有し処置を行っている。対応内容を看護職員ノートや業務日誌に記録しフィードバックしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院時は必ず付き添い退院時のカンファレンスを行っている。入院中の様子を伺ってバルーンカテーテル留置のまま退院の方を抜去して退院出来る様にした事例がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについての詳しい説明を行い同意を得ている。看取りになった場合は心身の状況を勘案し急変時の対応についてご家族、主治医を交えて話し合いの場を設けている。何時でも来訪出来る様に密に連絡を取っている。	入居契約書締結時に契約書に記載された重度化した場合における対応にかかる指針を説明し、同意書を取得している。看取りケアに関しては、利用者の状況に応じて、その都度「事前確認書」にて意思確認をするようにしている。看取り研修は、管理者が講師となって実施するようにし、看取り後の振り返りやグリーンケアも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様が急変や事故発生時の対応についてや救急車依頼についての確認を行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中と夜間を想定した避難訓練を年2回行って避難手順を確認している。今年度はコロナウイルス感染防止の為に机上訓練を行っている。 長津田消防署と連携している。	昨年12月に机上訓練、今年6月に日中想定での避難訓練及び消火器使用訓練を実施した。今回は1階の利用者のみが参加をしている。備蓄品は玄関横のプレハブに保管し、「備蓄品リスト」で管理している。2回の訓練時には炊き出しも行い、備蓄食料を実際に試食している。食料品以外にもカセットコンロ、ボンベ等も備えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人の性格や行動を把握し詳しい説明や注意はせず人としての価値を認め常に敬いの態度で接している。	利用者への声掛けについては、様々な場面を想定しながらの接遇研修を行っている。利用者の名前は名前に「さん」付けで呼ぶことにしている。記録を書く際は利用者から見えないところで行い、個人情報を含む書類は鍵のかかるキャビネットで保管している。管理者専用パソコンはパスワードで管理している。	前回調査からの改善テーマである接遇に関しては、以前より良くなっていますが、声掛けの仕方には改善の余地がありそうです。職員同士が注意しあうなど、職員の皆さんが更に高い意識をもって接遇改善に向けて臨むことを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位を常に優先し充分傾聴し言葉にできない声を読み取る様に努め質問や声掛けを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先しない様に会議等で伝えている。その人のペースで食事をして頂いたり起床して頂いてその日の体調や状況に合わせて過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で髭を剃り整髪してお好きな衣類を選んで頂いている。		

40	18	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事は刻みやトロミを付けて提供している方も多く安全に提供出来る様話し合いをしている。食器を片付けて頂いたりお盆拭きをお手伝いして頂いている。</p>	<p>汁物、ご飯は事業所で作り、主菜、副菜は食材業者からの調理済み食品を利用している。敬老の日やクリスマスには、利用者からリクエストを募り、職員がバイキング料理を作ったり、出前のうなぎやちらし寿司を取って食事を楽しむ工夫をしている。菜園で育てた野菜が食卓に並ぶこともある。また、毎日のおやつを手作りしている。誕生日には手作りケーキと、職員皆で作った色紙を渡してお祝いしている。</p>	
----	----	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に毎日の食事、水分摂取量を記録している。状態に応じ食事形態や量を変えている。入居前からお好きなヨーグルト等を個人のおこずかいから購入して毎朝お出ししている方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医師の指導のもと毎食後ひとり一人に対応した口腔ケアを行っている。先ずはご自分で出来る事はやって頂き仕上げを手伝う様にしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りトイレで排泄出来る様排泄パターンや習慣を把握しオムツの使用を減らす様会議で話し合っている。	自立の方もいるが、排泄チェック表をこまめに確認し、トイレ誘導している。この対応は、家族に掛かるオムツ代等の費用負担軽減にもつながっている。夜間は睡眠優先、定時誘導と利用者に応じた対応としている。転倒防止のリスク回避に夜間だけポータブルトイレを利用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を多くして運動量を増やして廊下歩行訓練や散歩の機会を持ち便秘解消の努力をしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴は決めているが入居者の体調や都合に合わせて日程や時間は柔軟に対応している。便汚染時はその都度入浴して感染防止に努めている。	基本は週2回、午前中入浴としている。入浴を好まない方には無理強いせず、清拭することもある。同性介助にも対応している。ヒートショックは、浴室暖房と脱衣場のエアコンで防止している。庭の柚子を用いた柚子湯を楽しんでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も疲れたら本人の希望を伺い休んで頂いている。入居前の習慣で遅くまで起きておられる方はフロアで歌を聞いて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的副作用は理解している。ご家族の希望も踏まえて主治医と相談しながら薬の使用量を減らせる様努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな方が多く毎日歌会やゲームに参加している。お盆拭き、洗濯物たたみ、森林浴等を行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周りの散歩や森林浴に出掛けている。ご家族にも協力お願いしている。	職員と一緒に「市民の森」での散歩や外気浴を行う利用者がいる。家族に依頼して散歩に連れ出してもらうこともある。2階ベランダが周回コースになっており、ベランダにベンチを置いて外気浴を楽しむ方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事が出来ている方がお一人おられます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と電話でやり取りしておられる方がおります。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ等の手が触れる所がいつも清潔保持出来る様職員が当番制で行い記録に残している。 入居者様が落ち着いて過ごせるように照明は刺激がない様にし温度管理をしている。	1日に3回清掃、消毒を行って衛生面に留意している。リビングは窓が大きく広めの造りとなっている。キッチンから利用者の様子が見えるようにカーブミラーが設置され安全面にも配慮されている。広い廊下は歩行訓練にも利用されている。壁面は行事の写真等限られた装飾とし、スッキリとしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファに集まれるよう配置し気の合った方同士が隣席になれるようにしている。一人になれるソファもある。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が訪問された時使用できる様に椅子を置いておられる方が多いです。仏壇やテレビご家族の写真を置いておられる方もいる。	備え付けは、介護ベッド、照明、クローゼット、エアコン、防災カーテンとなっている。入口には自作の作品を飾ったり、職員が作った表札がかかっている。馴染みの家具を持ち込み思い思いの部屋としており、壁には誕生日にもらった色紙を飾っている利用者が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	書き物が出来る様に机や椅子を置いて居室で書き物をしている方がいる。		



事業所名	グループホーム まっとう
ユニット名	2階 Bユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は暗唱や唱和ではなく実践としての落とし込みが第一と考えています。職員会議の場などでも毎月の反省や理念浸透について上長からの指導があります。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	未実施。コロナ対応のため。国や市、保健所などからの厳戒指示継続実施のため実施不可能。半面、弊社ではクラスターの発生もなく経過。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	未実施。地元地域の方々が弊社を通じて認知症への理解が高まるとい事例はありません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各担当からの意見を伺う事で第三者視点を持ち現場へのフィードバックにつながっていますが、コロナ対応のため開催回数は激減しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	上長主体ですが、地域のグループ連合での活動が定期的に行われています。研修なども継続実施されています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	日常的なご利用者様への声かけなど、日々のマナーにも不適切な対応がないか、各自振り返るように努めていますが、現状さらに改善やレベルアップに努めて参ります。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	R4年7、8、9月と3ヶ月継続して虐待に関する勉強会を会議の席を通じて実施。全ての職員が不適切と感じたケアには注意していくとする対応を行うこととまとめた。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	未実施。後見人などについての学びの場は少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約＝入居と捉えます。特に問題ありません。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	実施。外部評価に沿っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見、提案は聞いていただけますがすべてにおいて職員の意向が反映させるわけではありません。必要、不必要、急ぐかそうではないかなどの判断は上長、並びに会社が判断します。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現状、代表者は数字と情報しか見ていないので職員ひとりひとりのことははっきりわかりませんが、良い環境を用意するという意識は理念の通りにあるものだと伝わっています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	バリデーション研修に特化している他、本年度は虐待防止、ハラスメント研修などを実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	実施。継続中。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係性を作ることに努めていますがコミュニケーションが成立しないことも多く必ずしも全ての意向が汲み取れているとは言い切れない。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実施。Bユニットの傾向として要望はあるものの、ではどう対応するかということは「そちらにお任せします」とする回答が多い。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実施。フロア会議、サービス担当者会議の席でも取り上げプランやケア業務に反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	実施。毎日の挨拶から生活が始まります。重度の方にも誠意を持った対応を心がけています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	実施。緊密あるいは定期的な連絡や情報提供をもって対応させていただいております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	実施。ご利用者様宛のお便り、差し入れなどに対して弊社担当が代行してお礼状などを差し上げました。その他、電話の取次ぎ代行などを継続的に実施中。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	実施。ご利用者様同士の橋渡しも生活支援として考えています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	評価できず。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活支援の観点からケアプランに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの他にもご利用者様本人の記憶や言葉などからも話題を作り、個人像を膨らませてケアの応用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護、医師からの情報も基準にして日々の状態把握に努めている。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護、医師からの情報も基準にして日々の状態把握に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録から協議、または会議の席などで意見をまとめて計画、全体発信としている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多様という事例は特になし。社風が長い職員が多いことは新しいものを受けにくい傾向はどの業界にもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問マッサージ、歌などのボランティアの受入れあり。時効の面から一部を中止で継続。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	実施。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	実施。ただし、皮膚の観察や爪切りが主体なので、もう少しバイタルの状態や嚥下状態などの医療系な面でのサポートがあるとベターです。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	実施。ホームで過ごすにあたっての意向を伝えるとこができた事例あり。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	実施。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	口頭指示のみ。医師、看護師などからの研修や講義があると良い。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間の避難訓も実施。日勤、夜勤者ともに対応できるように努めている。避難訓練の実施にあたってはご利用者様も参加しました。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	実施。ただし不適切ケアの観点から改善の必要あり。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	実施。できるだけケア側に誘導はしないように対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	実施。ただし、薬剤の内服など必要性、あるいは緊急性の高い内容については介護側の判断を主導とします。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	実施。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	未実施。準備、片付けは全介助、全提供。ADL低下のため。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	実施。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施。手順については一部情報や手順が統一されていないこともあるので会議の席で再発信したり、医師からの指示も含めて伝えている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	実施。ただし改善の余地あり。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	実施。成功事例としては職員からの提案でベッド上での生活のご利用者様を便座に着座、自排便を促すことが出来た。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	全てのご利用者様の都合に合わせてすることは困難ですが、できるだけ希望を受ける体勢をとるように配慮する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実施。ただし昼夜逆転や生活不活発にならないように適宜覚醒や離床の促しは継続して行います。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の情報は理解が難しい。特に内服後分からないことが起こることが副作用な一面もあるため状態変化には注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	運筆、ゲーム、歌などのレク。簡単なお盆を拭く、洗濯ものを畳むなどの作業を行う。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	未実施。コロナ対応のため。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実施不可能。全介助。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実施。通話の介助などを定期的に実施。その他、暑中見舞いなどを書いていただきました。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に配慮しているが、日々の清掃作業ではまかないきれないことがあります。例えばカビなど。第三者からの視点ではシックハウスと捉えられてもという懸念があります。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	実施。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	実施。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用様がカーテンを閉めたり、物を運ぶ際の導線に配慮しています。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームまっとう

作成日 令和5年1月20日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	ご家族様より特にご指摘等はありませんが昨年より接遇についての研修を行っており改善はしているがまだ一部の職員の声掛け等が適切とは言えない事もある	フロア会議で不適切な声掛け等がないか出し合い職員同士が注意し会える様な風土作りをする	毎月のフロア会議で議題にして不適切な声掛けが無い か全員で共有する	令和5年6月
2					
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。